

用途区分7号:ホテル又は旅館

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
1	市川ビル	中区小町3番地7, 8, 9, 10, 11, 12, 23	ホテル	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.65$ $q=1.04$	耐震改修済	-	その他の用途:事務所
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s=0.56$ $I_s/I_{so}=1.03$ $C_{tu} \cdot SD=0.44$			10階S造部分
				別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_s=1.01$ $I_s/I_{so}=1.87$			塔屋部分(中央)及び地下部分 耐震診断の結果(詳細) $I_{so}=0.54$
								塔屋部分(西側) 耐震診断の結果(詳細) $I_{so}=0.54$

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の 主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の 地震に対する安全性の評 価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
2	ひろしま国際ホテル	中区立町3番地8, 18, 30	ホテル					その他の用途: 飲食店
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.28 Is/Is0=0.51 Ctu・SD=0.29	①補強設計 ②耐震改修	①平成28年11月着手予定 平成29年2月完了予定 ②検討中	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 7階 Is=0.28 Ctu・SD=0.29 6階 Is=0.52 Ctu・SD=0.54 Y方向 7階 Is=0.43 Ctu・SD=0.45 6階 Is=0.38 Ctu・SD=0.40
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.30 Is/Is0=0.55 Ctu・SD=0.28			SRC造部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 5階 Is=0.46 Ctu・SD=0.49 4階 Is=0.83 Ctu・SD=0.69 3階 Is=0.30 Ctu・SD=0.28 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.29 1階 Is=0.38 Ctu・SD=0.35 Y方向 5階 Is=0.39 Ctu・SD=0.41 4階 Is=0.38 Ctu・SD=0.35 3階 Is=0.34 Ctu・SD=0.31 2階 Is=0.40 Ctu・SD=0.38 1階 Is=0.45 Ctu・SD=0.42
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.20 Is/Is0=0.37 Ctu・SD=0.21			塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 PH5階 Is=0.33 Ctu・SD=0.35 PH4階 Is=0.39 Ctu・SD=0.41 PH3階 Is=0.20 Ctu・SD=0.21 PHM2階 Is=0.39 Ctu・SD=0.41 PH2階 Is=0.32 Ctu・SD=0.34 PH1階 Is=0.26 Ctu・SD=0.28 Y方向 PH5階 Is=0.53 Ctu・SD=0.44 PH4階 Is=0.45 Ctu・SD=0.48 PH3階 Is=0.31 Ctu・SD=0.32 PHM2階 Is=0.95 Ctu・SD=0.79 PH2階 Is=0.80 Ctu・SD=0.66 PH1階 Is=0.60 Ctu・SD=0.50
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.03 q=0.14			S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH6階 Is=0.03 q=0.14 Y方向 PH6階 Is=0.03 q=0.24
別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.93 Is/Is0=1.29	北側塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 PH2階 Is=3.75 PH1階 Is=1.25 Y方向 PH2階 Is=2.77 PH1階 Is=0.93						
3	ホテル法華クラブ広島	中区中町7-4, 4-37	ホテル					その他の用途: 変電所
				別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.76 Is/Is0=1.40 Ctu・SD=0.63	耐震改修済	—	Aブロック 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54
				別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.61 Is/Is0=1.12 Ctu・SD=0.51			Bブロック 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54
別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.63 Is/Is0=1.16 Ctu・SD=0.26	1・2階部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54						

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
4	広島インテリジェントホテルアネックス	南区稲荷町3-2, 3-3, 3-4, 3-18, 3-19番地	ホテル	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	$I_s=0.78$ $I_s/I_{so}=1.30$ $C_{tu} \cdot SD=0.58$	耐震改修	検討中	SRC造部分 耐震診断の結果(詳細) $I_{so}=0.75$ X方向 2階 $I_s=0.93$ $C_{tu} \cdot SD=0.68$ 1階 $I_s=0.78$ $C_{tu} \cdot SD=0.58$ Y方向 2階 $I_s=1.12$ $C_{tu} \cdot SD=0.82$ 1階 $I_s=0.80$ $C_{tu} \cdot SD=0.74$
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.44$ $q=0.73$			A棟S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 12階 $I_s=0.48$ $q=0.77$ 11階 $I_s=0.48$ $q=0.77$ 10階 $I_s=0.48$ $q=0.77$ 9階 $I_s=0.48$ $q=0.77$ 8階 $I_s=0.47$ $q=0.77$ 7階 $I_s=0.48$ $q=0.77$ 6階 $I_s=0.47$ $q=0.77$ 5階 $I_s=0.48$ $q=0.80$ 4階 $I_s=0.47$ $q=0.80$ 3階 $I_s=0.48$ $q=0.80$ Y方向 12階 $I_s=0.44$ $q=0.76$ 11階 $I_s=0.45$ $q=0.76$ 10階 $I_s=0.45$ $q=0.76$ 9階 $I_s=0.45$ $q=0.73$ 8階 $I_s=0.45$ $q=0.73$ 7階 $I_s=0.45$ $q=0.73$ 6階 $I_s=0.45$ $q=0.73$ 5階 $I_s=0.45$ $q=0.73$ 4階 $I_s=0.44$ $q=0.73$ 3階 $I_s=0.44$ $q=0.73$
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.31$ $q=0.50$			B棟S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 12階 $I_s=0.35$ $q=0.57$ 11階 $I_s=0.35$ $q=0.57$ 10階 $I_s=0.35$ $q=0.57$ 9階 $I_s=0.35$ $q=0.57$ 8階 $I_s=0.35$ $q=0.57$ 7階 $I_s=0.35$ $q=0.59$ 6階 $I_s=0.35$ $q=0.59$ 5階 $I_s=0.35$ $q=0.59$ 4階 $I_s=0.35$ $q=0.59$ 3階 $I_s=0.35$ $q=0.59$ Y方向 12階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 11階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 10階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 9階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 8階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 7階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 6階 $I_s=0.31$ $q=0.50$ 5階 $I_s=0.31$ $q=0.52$ 4階 $I_s=0.31$ $q=0.52$ 3階 $I_s=0.31$ $q=0.52$
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.31$ $q=0.50$			B棟塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH階 $I_s=0.35$ $q=0.56$ Y方向 PH階 $I_s=0.31$ $q=0.50$

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の 主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の 地震に対する安全性の評 価の結果	耐震改修等の状況		備考		
						内容	実施時期			
5	広島グランドインテリ ジェントホテル A棟	南区京橋町1番4号	ホテル	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)	Is=0.601 Is/Is0=1.00 Ctu・SD=0.42	耐震改修済	—	A棟SRC造部分 耐震診断の結果(詳細)Is0=0.6 X方向 4階 Is=0.67 Ctu・SD=0.48 3階 Is=0.83 Ctu・SD=0.59 2階 Is=0.70 Ctu・SD=0.50 1階 Is=0.74 Ctu・SD=0.52 Y方向 B階 Is=1.02 Ctu・SD=0.72 4階 Is=0.60 Ctu・SD=0.43 3階 Is=0.65 Ctu・SD=0.46 2階 Is=0.61 Ctu・SD=0.44 1階 Is=0.66 Ctu・SD=0.47 B階 Is=0.60 Ctu・SD=0.42		
								別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(2011年版)鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.71 Is/Is0=1.18 q=1.14	A棟S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 14階 Is=0.84 q=1.36 13階 Is=0.84 q=1.36 12階 Is=0.84 q=1.36 11階 Is=0.84 q=1.36 10階 Is=0.84 q=1.36 9階 Is=0.84 q=1.36 8階 Is=0.84 q=1.36 7階 Is=0.84 q=1.36 6階 Is=0.84 q=1.36 5階 Is=0.84 q=1.36 Y方向 14階 Is=0.71 q=1.14 13階 Is=0.71 q=1.14 12階 Is=0.71 q=1.14 11階 Is=0.71 q=1.14 10階 Is=0.71 q=1.14 9階 Is=0.71 q=1.14 8階 Is=0.71 q=1.14 7階 Is=0.71 q=1.14 6階 Is=0.71 q=1.14 5階 Is=0.71 q=1.14
								別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(2012年版)鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.71 Is/Is0=1.18 q=1.14	A棟塔屋S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=0.84 q=1.36 PH1階 Is=0.84 q=1.36 Y方向 PH2階 Is=0.71 q=1.14 PH1階 Is=0.71 q=1.14
								別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)	Is=0.61 Is/Is0=1.01 Ctu・SD=0.46	B棟SRC造部分 耐震診断の結果(詳細)Is0=0.6 X方向 4階 Is=0.68 Ctu・SD=0.51 3階 Is=0.66 Ctu・SD=0.49 2階 Is=0.65 Ctu・SD=0.49 1階 Is=0.61 Ctu・SD=0.46 Y方向 B階 Is=0.67 Ctu・SD=0.51 4階 Is=0.75 Ctu・SD=0.72 3階 Is=0.77 Ctu・SD=0.62 2階 Is=0.77 Ctu・SD=0.74 1階 Is=0.62 Ctu・SD=0.59 B階 Is=1.06 Ctu・SD=0.79
								別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.62 Is/Is0=1.03 Ctu・SD=0.59	B棟RC造部分 耐震診断の結果(詳細)Is0=0.6 X方向 9階 Is=1.20 Ctu・SD=1.14 8階 Is=0.75 Ctu・SD=0.72 7階 Is=0.72 Ctu・SD=0.68 6階 Is=0.62 Ctu・SD=0.59 5階 Is=0.64 Ctu・SD=0.61 Y方向 9階 Is=1.04 Ctu・SD=0.99 8階 Is=0.69 Ctu・SD=0.66 7階 Is=0.62 Ctu・SD=0.59 6階 Is=0.64 Ctu・SD=0.61 5階 Is=0.62 Ctu・SD=0.59

耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I	II	III	
		地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版, 2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$	
(5-5)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及び I_{so} を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。